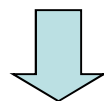


施設ピーマンにおけるギファブラバチのバンカー法マニュアル

背景・ねらい

ギファブラバチをより低コストでかつ安定的に活用するための手段であるバンカー法によるギファブラバチ生産性、持続期間等を明らかにし、現地で実践できるバンカー法実施マニュアルを策定する。



用いる資材と数量及びその取り扱い時期と。

研究方法

○移植機植付後(2月上旬)～3月下旬に不織布をべたがけし、無被覆並びに慣行体系である芽出(出芽後にマルチ穴開け)体系と比較検討(平成24～26年度)

成果の内容・特徴

不織布を被覆することで

- ①平均地温は慣行芽出体系と同程度で、無被覆に比べ2.5℃程度の地温上昇効果
- ②出芽は無被覆に比べ早く、出芽揃いも良好で、初期生育が促進されことで草丈が長く、節数も増加する。
- ③収量は、無被覆に比べ高く、慣行の芽出体系と比べても遜色ない。

今後の展開

現状、不織布被覆は人力作業であり、植付時期における他作業との労力競合回避のため、被覆作業の機械化を検討予定